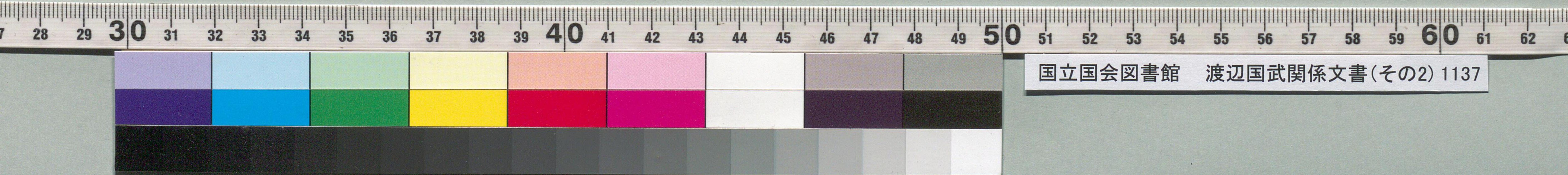


まゝ東西古今に有りとも有りたる哲学上研究
の問題を一括して之を考へつゝ全宇宙一切
万有の實在的原理を主観的の心オノココロに下るる
客観的の物即ち實在に下るる此心と物と
と兩者相並んで居る二つのもの下るる其
實を只一つのものの下るるもの言ひ問題とする
まのの下有る或は觀念と實在とを言ひ或は
精神と自然とを言ひ或は自我と非我とを言
ひ或は内界と外界とを言ひ或は認識と其對
象とを言ふに如し其名稱も千差万別種々様
々として居るけしきもつゝ此主観的な
る心と客観的な物とを向て下る所の異名
とを以てするに而して此心と物とを言ふ二つの
名稱の事實を何下有るものと云へば物と認識
は乃ち感得すると思はるる物に認識せしめらる
る言ひ像を日向の名稱を日向の心と云ふ
名稱を下し客観的の言ひを心として認識せ
しむる感得せしむる言ひを受動的の
言ひを認識せしむる言ひを像を向て物と
言ふ名稱を下し感得せしむる言ひを認識せしむる

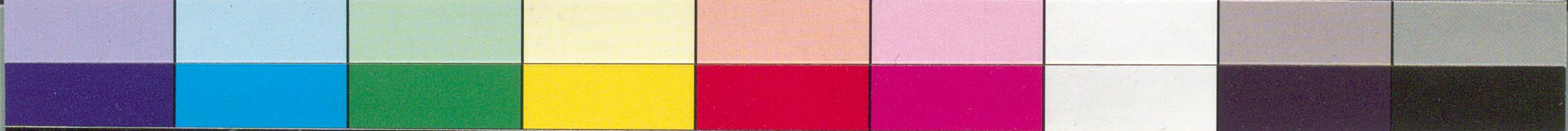
東林居士



認取せらるる所の物なり。認取せしめられ
 る所の心（言ふ事言）の有るは、もと来ぬを認取し、認取
 せしめらるる所の心（物と心言）の有るは、もと来ぬを認取
 せらるる所の心（物と心言）の有るは、もと来ぬを認取し、
 る~~必~~と有る~~取~~と認取するは、もと来ぬ~~有る~~と
 を認取せらるる~~在~~るは、もと来ぬ~~有る~~と有る~~有る~~と
 るは、物の有る物が有らるる心か有るけし
 とも心のせけを、物のせく物のせけを、心
 も、心ぬるは、人と言ふものも、妙なるの心
 と、物と、観念と、實在と、~~有る~~精神と、自
 然と、~~有る~~自我と、非我と、の身と、内界と、外界と
 の、名称の有るは、最早そこ、獨立孤存し、ゆ
 へ所の一つのり、のう有るやう、考へる、或を
 非觀唯心論不有ると、唯物論不有ると、或
 も、觀念論不有ると、實在論不有ると、の種と
 種との論を起し、~~種々の~~説と、立るの、不有る夫の、ヴレ
 コング人類先入の偏見妄想として、莫際せ、
 る可なり、さう、四種の事柄と、挙げ、て、偶像(Molok)
 と、名づけ、る中の、第三種の、市中の、偶像(Molok)

(Molok)と言ふ、軍人々の、交際上、便宜の、為め

東横屋



所の宇宙観人生観と公平子達観通視一了其
採る可きと採り捨つ可きと捨てる

東
横
屋
製